

## 3月定例教育委員会 会議録

日 時	平成30年3月14日（水） 午前9時30分～午前10時10分
場 所	9階会議室9-2
出席委員	小林教育長・小宮山職務代理者・原委員・堀委員・市川委員
出席事務局職員	小林教育部長・望月生涯学習室長・塩澤総務課長・松田学校教育課長・宮川学事課長・照沼教育施設課長・本田甲府商業高等学校事務長・碓井甲府商科専門学校事務長・飯田スポーツ課長・本田図書館長・村田総務課課長補佐・芦川総務課課長補佐・鷹野総務課係長・杉山総務課主任
傍 聴 人	
署名委員	
委員会書記	

・会議録署名委員の指名 小宮山職務代理者

・2月定例会会議録の承認 原案のとおり承認

	小林	
堀		小宮山
市川		原

### 1 開会

#### 小林教育長

これより、3月定例教育委員会を開会します。

#### (1) 教育委員あいさつ

##### 小林教育長

いよいよ春めいてまいりました。3月3日はひな祭り「桃の節句」でした。私も久しぶりにお内裏様とお雛様だけ玄関に飾りました。飯田蛇笏の俳句に「いきいきとほそ目かがやく雛かな」という句がありますが、二つ飾っただけでしたが、本当に華やかになりました。嫁に行った娘もそれを見て、喜んだり、懐かしがったり、賑やかなひとときになりました。

ところで、平昌オリンピックの余韻も冷めやらないところですが、女子スピードスケート500メートルで金メダルをとった小平奈緒選手があるインタビューの中でこう答えています。「スケートには学ぶことの楽しさを学ばせてもらっている」と。私はそこに、ある意味日本の文化に脈々と息づいている「スケート道」というべきか「道」というものを感じました。まさに、柔道や剣道のように、単に相手に勝つことを目的にするのではなく、極限まで自分の力や技術を高めようとする高い精神性を思い起こされたからです。

人は、何かを極めようとするときに、必ず壁に突き当たります。肉体や能力と共に心の問題で

す。小平選手も期待されながら、記録が伸び悩んだ時期もありました。きっと精神的に苦しかったことと思います。しかし、オランダに留学して、自分のスケートを見直し、多くのことを学びながら、独自の走法を獲得し飛躍的に成長しました。その背景には、前回のソチオリンピックで不甲斐ない思いをしたことへの反省や、「今度こそ」という強い思い、諦めない、がんばりぬく強い心があったと思います。そして、何よりも、「学ぶことの楽しさを学んだ」ことによってスケートが自分のものになったのではないのでしょうか。

スポーツに限らず、学問においても「学ぶことの楽しさ」は、意欲やがんばりぬく力につながる大切な要素です。今、教育会においてもこうした意欲やがんばりぬく力などの「非認知能力」が注目されています。この非認知能力とは、IQ（知能）のように数値化できない能力で、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性などの個人の特性であり、目標に向かってがんばる力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力などの人間の内面の力です。こうした非認知能力は、最終的には学力やIQより人生の成功を左右するといわれています。

さて、甲府の教育指導重点のひとつに「思い遣る心の育成」を掲げています。「甲府の子どもの教育」の全体図で示しているとおおり、「思い遣る心の育成」は、「自分を思いやる心」「他の人を思いやる心」「集団や社会を思いやる心」「自然や生命を思いやる心」の育成の四つの視点から、「常に自己を見つめ高めようと努力する力」や「互いに信頼し合い、協力してものごとを行う力」「広い視野に立ってだれに対しても温かい心で接する力」などを育てることを目指しています。これらの力は、まさに今注目されている非認知能力であり、これからの時代を生きていく子どもにとって、人生という「道」を歩んでいく上で様々な場面において欠かせない力があります。

小平選手が500メートルで優勝したとき、敗れた韓国のライバル李選手にそっと近寄って抱きしめたシーンは人々の感動を呼びました。オリンピックという極限の舞台の中で、自分に勝ち、相手を思いやる小平選手の姿をとおして、一層甲府の教育の指導重点である「思い遣る心の育成」の重要性を認識したところであります。

結びに、今年度最後の定例会になりますので、4名の教育委員の皆様、事務局の皆様のこれまでのご尽力に厚く感謝申し上げます、あいさつといたします。

## **(2) 会議録署名委員の指名**

### **小林教育長**

会議録の署名委員は、小宮山職務代理者を指名します。

## **(3) 会議録の承認**

### **小林教育長**

平成30年2月14日の定例教育委員会の議事録をご確認いただきまして、ご承認いただけますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは決定いたします。

**【原案どおり決定】**

(教育委員会承認)

## 2 議事

### (1) 議題

#### 小林教育長

議題 第4号 平成30年度甲府市学校指導重点について 資料に基づきまして、松田学校教育課長より説明をお願いします。

(松田学校教育課長より資料に沿って説明)

#### 小林教育長

説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご意見・ご質問等ありませんか。

#### 小宮山職務代理人

「生きる力」を育む教育課程の編成に、カリキュラムマネジメントに基づく教育課程の編成とありますが、具体的な事例があれば教えてください。

#### 松田学校教育課長

各学校において、指導計画が策定されていますが、作成するにあたって、児童生徒保護者のアンケートによる学校評価の結果や、あるいは全国的な学力調査、外部調査の結果などを踏まえて、教育課程を改善しています。教育課程を編成し、実施する、その結果がどうだったかを各種調査によって検証し、改善するといういわゆるPDCAサイクルによって教育課程を編成しています。

#### 小宮山職務代理人

具体的なカリキュラムは、授業の過程などのことで、そこに保護者の意見などの外部の意見を教育課程に取り込む新たな時間を取ることはないと思っているのですが、教え方など学習指導要領に定めているものに対して、外部の意見を教育課程に取り込むことは、学校や市町村に任されているということですね。核は変えないけれど、要望があったら、教え方など踏み込んだ形で教育課程を変えることができるようになっているのでしょうか。

#### 松田学校教育課長

基本的には、必ず取り扱う内容や授業時数は、今の教育指導要領に定められていますが、例えば、その学校の子どもの学習課題が基礎的な面であれば、家庭学習を充実させようとか、体力面についても課題があれば、休み時間や放課後の遊びに意図的に取り入れるなど、ウェイトをどこに置くかということは各学校で行っております。

#### 小宮山職務代理人

これまでも行っていたことだと思うのですが、カリキュラムマネジメントに基づく教育課程の編成と実施と平成30年度の甲府市の学校教育指導重点に改めて記載したということは、力を入れて、子どもたちの学力や体力に応じて、教育課程を変えていくと推進していくという理解でよろしいでしょうか。

### **松田学校教育課長**

教育課程の編成権は学校長にありまして、各学校の校長もスクールプランという地域の子どもの実態や課題に応じて目標を更に重点化していくことに取り組んでいます。

### **小宮山職務代理者**

わかりました。

### **小林教育長**

これまでも、学校評価をその都度検証して、結果を生かすというサイクルはありましたが、新しい指導要領の趣旨に沿うために、改めてそのサイクルを回していくということですね。

### **小宮山職務代理者**

改めて、甲府市の教育の目標として取組むということで、理解いたしました。

### **小林教育長**

他にありますでしょうか。

### **堀委員**

「思い遣る心」を育む生徒指導の推進のところで、不登校・暴力行為等への対応を最優先課題とするとあるのですが、ひとつお聞きしたいのが、とくに中学3年生の不登校生徒の進路指導の関わりは、おそらく担任の先生が中心になってすすめているのだと思うのですが、学校側の関わりというのが具体的にどのように進められているのか教えていただけますか。

### **松田学校教育課長**

それぞれの学校で委員会を設けまして、まずは学級担任が対応することになりますが、養護教諭などがキーパーソンとなることもありますので、担任だけが抱えるのではなく学校体制で対応することに取り組んでいます。また、子どもの状況にもよるので、難しい面もありますが、市の教育委員会としても適応指導教室を3箇所設けまして、学校に登校できない子どもたちの学習の機会の確保にも取り組んでいます。

### **堀委員**

適応指導教室に通っている子どもたちは、例えば、今は校長会テストを受ける時期だとか学校の進路の進み具合が情報として入ってくるのですが、学校に通えない子どもや保護者にはその状況が入らなかったり、連携取りにくかったりということが実際あります。子どもの状況は個々に違うので、関わりとても難しいと思いますし、担任の先生もそこまでの関わりというのは、他の子どもとの関わりもあり大変だと思います。なので、学校総体として不登校生徒への進路対策に更に力を入れて進めていただきたいと思います。義務教育が終わる中学のその時に、その先どういう進路を取れるかということが、ひとりの生徒の将来を決定付けていくといっても過言ではないくらい重要になると思いますので、先生方にはご苦労をおかけするかと思いますが、ぜひ力を入れて取り組んでいただきたいと思います。

### **小林教育長**

2番の柱に大きく関わるとお思いますので、その具体化において学校教育課にも指導をお願いしたいとお思います。

他にありますでしょうか。

### **原委員**

読書に関する記述が見受けられないのですが、何か読書の推進に関する記述はありますでしょうか。

### **松田学校教育課長**

確かな学力の育成のこのところに、読書習慣の確立という記述をしております。朝読書や学校図書館の積極的な利用に取り組んでおります。

### **原委員**

申し訳ありません、見落としておりました。スマホの普及等で子どもたちに活字離れの傾向があり、さらに、2020年には、大学センター試験のマーク式から共通テストの記述式に変わりますので、読書に関することは是非学校に推進していただきたいとお思います。思考力、読解力、想像力は読書をすることで培われますし、数学も読解力がないことには解けませんので、読書のところは重点的にお願いしたいとお思います。

### **小林教育長**

他にはないでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、原案のとおり決定いたしました。

【原案どおり決定】

(教育委員会決定)

## **(2) 報告**

### **小林教育長**

報告 第4号 平成30年度甲府市立小中学校児童生徒入学者予定数について 資料に基づきまして、宮川課長より説明をお願いします。

(宮川課長より資料に沿って説明)

### **小林教育長**

説明が終わりました。これより質疑に入ります。ご意見・ご質問等ありませんか。

### **原委員**

指定校変更ですとか、在外という項目について、説明していただけるでしょうか。

### **宮川学事課長**

学区内の学校を指定校としていますが、甲府市立の違う学区の学校へ行かれる方が指定校変更となります。区域外就学は、市町村を異なる学校での就学となります。在外は、日本国籍又は二重国籍を持たれている方が、住所を甲府市におきながら、国外に住まわれている方になります。

### **小林教育長**

他に何かありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは原案のとおり確認いたしました。

【原案どおり確認】

(教育委員会確認)

## **3 閉会**

### **小林教育長**

それではこれもちまして、3月定例教育委員会を閉会します。